

科目名		テーマ		
経営分析		経営分析の考え方と進め方 具体的に公表財務諸表を分析・評価する手法		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修 / 指定科目
三重野 徹	3	2	経済情報学科	選択 / 教職課程科目 (商業)

[授業の内容・到達目標]

本講義は簿記論および会計学を履修した学生を対象とする。本講座は、先ず最初に、企業を計数的に分析・評価する「経営分析」とはどのような内容かを学ぶ。次に、一般的な各種経営（財務）分析手法の種類とその手順や算式の意味を学習する。具体的には、企業の分析・評価諸側面に①流動性分析（金回りの状況：資金繰り状況：）②収益性分析（利益計上の状況）③安全性分析（資本金額が企業規模に比べて適切か、借入金が過大でないか等をみる）④活性度分析（企業の経営資源が有効に経営活動に貢献しているか。遊休資産の有無の確認、企業内の贅肉の発見・除去等）⑤利益管理（損益分岐点分析より損失を出さないための売上とその費用の事前管理）⑥キャッシュ・フロー計算書の分析（広い意味では流動性分析であるが、資金の収支を営業分野、投資分野、財務分野に分けて分析し、併せて計上利益が現金の裏づけがあるかどうかという利益の質を評価する）等があるが、その多様な分析手法を学習する。以上学んだ経営（財務）分析手法を活用し、上場企業（トヨタ自動車やセブンイレブン等）の公表財務諸表から経営（財務）分析を、具体的に、コンピュータ演習室で Excel を使って演習し、実践的経営情報分析能力を身につける。本講座では、経営分析の手法を理解し、その後に実在する企業の公表財務諸表を使い、それを分析・評価することが出来る能力の育成を行う。グループ演習と発表を通じて分析の観点、数値の評価レベルについて体得する。

到達目標として、企業のIR情報及びデスクロージャー（情報公開）を読み、理解できる。公表財務諸表から企業情報の経営分析ができる。企業の経営状況を把握することができるようになるといった能力を育成する。

[授業方法]

授業計画に添って、テキストにより進める。授業を受ける前に授業計画のテーマをテキストにより予習を行なうこと。経営分析の方法については、説明を行なった上で、受講生自身が個々の諸財務指標の計算とその結果の分析・解釈をレポートする。グループ演習によってディスカッションと発表の場も設定するので、自発的に学習を進めること。

[成績評価の方法]

①授業への参加態度 20% ②課題レポート（計算問題含む） 20% ③期末テスト 60%

[テキスト]

受講生は授業に必ず持参すること。
森田松太郎著『経営分析入門』
日本経済新聞社、

[参考文献]

①渋谷武夫著『経営分析の考え方、進め方』中央経済社
②倉田三郎外 3名共著『入門経営分析』同文館出版
③青木三十一著『経営分析の基本が分かる本』ぱる出版
④K.G パレブ・V.L バーナード・P.Mヒーリー編著、斉藤静樹監訳『企業分析入門』東京大学出版会
⑤トム・コーブランド/タイム・コラー/ジャック・ミュリン著、伊藤邦雄訳『企業評価と経営戦略』日本経済新聞社

[履修上の注意・その他]

テキストは必ず購入すること。前提条件を満たさない者、並びにテキストを購入しない者は受講させない。参考書は精読すること。自発的な学習の場であり、演習、発表を行うのでEXCEL、POWER・POINTのスキルのあること。コンピュータ演習室にて実施する。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	オリエンテーション
2	経営分析とは IR (インベスターズ・リレーション) 情報 ①経営分析のポイント②経営情報の重要性③外部からの分析④会社をトータルにみる。
3	財務安全性 ① 流動性をみる ② 資本安全性をみる
4	財務収益性 ① 資本の収益性
5	財務収益性 ② 売上利益率 ③ 損益分岐点
6	企業の活性度分析 ① 諸回転率 ② 設備の効率
7	キャッシュフロー分析 ① 営業キャッシュフロー ② フリーキャッシュフロー
8	キャッシュフロー分析 ③ 投資キャッシュフロー ④ 財務キャッシュフロー
9	経営分析演習 (公表財務諸表の検索) 上場企業の公表財務諸表による経営分析を演習する。
10	経営分析演習 グループにより経営分析を演習する。
11	経営分析演習 グループにより経営分析を演習する。
12	グループ発表まとめ
13	発表 1
14	発表 2
15	発表 3 まとめ